

河崎千晏 (21811097ck@tama.ac.jp)

1. 目的と手法

本研究は、木下是雄の「レポートの組み立て方」[1]を参考に、「事実の記述」と「意見」を分離することの重要性を確認することを目的とする。この目的で、毎日新聞社の社説[2]をとりあげ、題材や意見をできるだけそのまま残しながら、レポートとしてまとめる際の構成を検討した。

以下、「事実の記述」を寒色系、「意見」を暖色系で示す。

2. もとの社説の構成

もとの社説の構成を、図1に示す。

事実と意見が重なるようになっている。これでは、読者が意見を事実と受け取ってしまう可能性がある。

3. 改善したレポートの構成

改善したレポートの構成を、図2に示す。

事実、意見をそれぞれ一括りにした。また、事実と意見を切り離したことによる文脈の齟齬を訂正した。根拠がない意見を削除した。

4. 改善点の例

例えば、冒頭の会談した部分について日付が記載されていないので記載した。「同じく核問題を抱えたイランに対しては一方的に核合意から離脱し、中東情勢を緊迫化させる側に回っている。その姿勢に一貫性はない。」という部分は根拠が薄い意見なので削除した。

参考文献

[1] 木下是雄「レポートの組み立て方」(筑摩書房)(1990)

[2] 毎日新聞 2019/6/30日付社説「板門店での米朝会談 派手な演出よりも内実だ」

<https://mainichi.jp/articles/20190701/ddm/005/070/064000c>



図 1

図 2